

# ●現代の奴隷制●

## 『外国人研修・技能実習制度』

### —外国人労働者をどのように受け入れるべきか—

外国人研修・技能実習制度は本来、日本で途上国の青壮年に技術を教えるという国際貢献を目的とする制度です。しかしながら、この制度は中小零細企業等に低賃金労働者を供給するための制度に変容し、約20万人もの研修生・実習生が安価な労働力として受け入れられています。そればかりか暴力、旅券の取り上げや強制貯金などの前近代的な人権侵害が横行しています。本分科会ではこの制度の真相に迫るとともに、外国人労働者をどのように受け入れるべきなのかを考えます。

本分科会前半では、数多くの外国人研修生、支援者、受け入れ機関（零細業者など）、送り出し機関、ブローカーなどに取材を重ねてこられた気鋭のジャーナリスト、安田浩一さんをお招きして、「現代の奴隷制度」というべき外国人研修・技能実習制度の暗部を語っていただきます。

後半では、開催地・札幌で外国人労働者の支援活動をされている芦田科子さん、研修生問題に取り組む弁護士2名が議論に加わり、多角的な視点で問題の本質に迫ります。

### 基調報告 安田浩一さん

ジャーナリスト

『外国人研修生殺人事件』『JALの翼が危ない』

『外国人研修生 時給300円の労働者2』（共著）

『肩書だけの管理職』（共著） など著書多数。

### パネルディスカッション

安田浩一さん（ジャーナリスト）

芦田科子さん（外国人医療と国際交流NPO法人エスニコ）

大坂恭子さん（弁護士・研修生弁連共同代表）

指宿昭一さん（弁護士・研修生弁連共同代表）

安孫子理良さん（弁護士・研修生弁連会員）